

本校の学力・学習状況調査の結果をお知らせします

平成29年度
甲府市立北新小学校

この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態等を明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善・生活指導等に役立てることを目的としています。

本校でも、調査実施後に結果の分析を独自に行い、1学期後半より授業改善等に役立ててきました。さらに、このたび文科省より全国的な分析結果が送られてきましたので、その概要を知らせします。

- 実施日 : 平成29年4月18日(火) (全国一斉)
対象 : 全国の小学校6年生及び中学校2年生
調査内容 : ①教科に関する問題 (国語・算数)
「国語A」「算数A」: 主として「知識」に関する問題
「国語B」「算数B」: 主として「活用」に関する問題
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

なお、調査に参加した本校6年生一人一人には、既に個人票・問題・解答コピーを渡しながらか個別指導を行い、学級においても答え合わせ等を行っています。また、個別懇談において具体的に課題や成果について説明していく予定です。

分析結果について (全国・県との比較をとおして)

1 本校の概況

本校の参加児童: 6年生22名 (欠席児童なし)

本校の結果は、国語A、国語B、算数A、算数Bともに全国平均・県平均を下回りました。

設問の別においては、算数A「図形」領域、算数Bにおいても「図形」領域が、全国平均・県平均を上回る結果でした。

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもありますように、全国正答率の±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えています。

2 本校の主な課題

国語

国語A 主として「知識に関する問題」からみえた課題

- 「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う」趣旨の設問で、友だちからの報告の説明として適切なものを選択する設問の正答率が低い。
- 漢字を正しく字を書く設問の正答率が低い。

国語B 主として「活用に関する問題」からみえた課題

- 「目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉づかいで自分の考えを話す」趣旨の設問で、意見を基にして適切な答えを書く設問の正答率が低い。
- 「登場人物の相互関係や心理、場面についての描写を捉える」趣旨の設問で、適切な言葉を選択する設問の正答率が低い。

算数

算数A 主として「知識に関する問題」からみえた課題

- 「重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ」設問の正答率が低い。
- 「未知の整数を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表す」設問の正答率が低い。
- 「資料から、二次元表の合計欄に入る数を求める」設問の無解答率が高い。

算数B 主として「活用に関する問題」からみえた課題

- 「示された方法を問題場面に適用する」設問で正答率が0%である。
- 「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ」設問で正答率が低い。
- 「示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断する」設問で正答率が低い。

3 教科における主な改善点

国語

- 国語を中心として全ての授業において、「話す・聞く」場面をより多く設定し、相手を意識した発言や言葉づかいを心がける習慣の定着を図るとともに、発言の意図を聞き取る力の向上を目指した指導を展開していく。
- 漢字を正しく読む設問の正答率は高い傾向にあり、これまでの学習が一定の成果を収めていることがわかる。一方、漢字を正しく書く設問の正答率が低いことから、日頃の生活の中で既習の漢字を正しく書いて使うことや、計画的に既習の漢字を復習することなど、言葉を漢字で書くことを習慣化できるようさらに働きかけ、書く力の定着を図る。
- 文章を書く目的や文章で伝える意図を理解することの大切さ、場面や相手などの状況を判断することの大切さを実感できる経験を積みませ、書く内容や話す内容を適切に構成できる力の伸長を図る。
- 登場人物の心情の変化や登場人物どうしの関連に着目した読みとりなど、適切に描写を捉える力を伸ばすよう、背景・場面ごとに比べながら読むことなど、読みとりの視点を身に付けられるような指導を行う。また、地域・家庭とも連携し、読書活動の充実を図る取組をさらに進める。

算数

- 基礎的・基本的な計算の技能の習熟や維持を図るため、繰り返し練習の機会を増やすことや成果を認め合う雰囲気づくりや環境整備を進める。
- 問題場面の状況を的確に理解できるようにするため、適切に具体物、図、数直線等を自ら駆使するなど、問題解決に向けた学び方を身に付けさせる指導をさらに心がける。
- 小数や分数を具体物、図、数直線等を用いて説明することで、重さや長さなどの単位と関連づけて大きさなどを実感したり、小数と分数を結びつけて考えたりできるように指導をさらに工夫する。
- 割合に関する学習内容について、教育課程を精査し、各学年での学習内容を理解したうえで当該学年での指導に当たることが再確認し、指導が系統的に行われるように留意する。
- 事前に見通しを立てたり、事後に振り返ったりする学習を授業の過程に位置づけ、より深い理解を生み出すようにする。
- 家庭と連携しながら、「つなげる算数」「家庭学習の手引き」などを活用し、家庭学習の定着を図る。また、授業と家庭学習とを連携させて学習できるよう授業の展開を工夫する。

4 質問紙調査の主な特徴

【基本的生活習慣】

- 「朝食を毎日食べていますか」という設問に対して「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は、全国、県とほぼ同じである。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時間に起きている」と答えた児童の割合は、全国や県を下回っている。
- 「1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」の設問で2時間以上と答えた児童の割合は45.4%、「テレビゲーム」の設問で2時間以上と答えた割合は45.5%であった。「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の設問では、持っていないと答えた児童の割合は40.9%であった。

【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等】

- 挑戦心・自己有用感を問う設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。達成感・規範意識を問う設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国、県とほぼ同じである。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問で、『当てはまる』と回答している児童の割合は72.7%、『どちらかといえばあてはまる』と回答している児童の割合は27.3%であり、合計では100%であった。

【学習指導に関する取組状況、学習評価の在り方】

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を上回っている。
- 「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。

【授業以外での学習・家庭での生活に関連】

- 「学習塾で勉強をしていますか」の設問に対して『通っていない』と回答している児童の割合は、全国・県をに上回っている。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の設問に対して『全くしない』と回答している児童の割合は、全国・県をに上回っている。一方、「読書は好きですか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。
- 「放課後に何をして過ごすことが多いですか」の設問に対して『家族と過ごしている』と回答している児童の割合は、全国・県をに下回っている。
- 「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか」の設問に対して『している』と回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。

【学習に対する関心・意欲・態度（国語）】

- 「国語の勉強は大切だと思いますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は100%であり、全国・県を上回っている。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合も、全国・県を上回っている。
- 「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」の設問に対して『全ての書く問題で最後まで回答を書こうと努力した』と回答している児童の割合は、全国・県を下回っている。
- 「調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）」の設問に対して『時間が余った』と回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。

【学習に対する関心・意欲・態度（算数）】

- 「算数の勉強は好きですか」「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。
- 「算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ[根拠]を理解するようにしていますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。
- 「調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）」の設問に対して『時間が余った』と回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。

【学習状況】

- 「5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」「5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。
- 「5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思います」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国、県とほぼ同じである。

【学習時間等】

- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という設問に対して、1時間以上と回答した児童の割合は90.8%である。そのうち、『1時間以上2時間より少ない』の回答が一番多く、54.5%であった。
- 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」という設問に対して、1時間以上と回答した児童の割合は86.4%である。そのうち、『1時間以上2時間より少ない』の回答が一番多く、63.6%であった。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を上回っている。
- 「家で、学校の授業の復習をしていますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。

【学習生活等】

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」という設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。

【地域や社会、外国に対する興味・関心】

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国、県とほぼ同じである。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を

上回っている。

- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、全国・県を下回っている。

5 質問紙調査からの改善点

- ◇今後とも、「早寝・早起き・朝ご飯」を基に、基本的な生活習慣の定着・維持について各家庭と連携して推進する。
- ◇テレビやゲームの時間を減らし、読書や家庭学習・家族の団らんの時間を多くすることなど、自己の成長にとって有益な生活を送ることを心がけるよう、各家庭と連携して推進する。
- ◇自主的・主体的活動の機会を大切にして充実感や達成感を与え、自己有用感や自信をもたせる指導を重視する。
- ◇道徳や学級活動の指導の中で、日常生活と関わらせながら規範意識の伸長に努める。
- ◇学習したことが自己の成長にとって有益になることを実感を伴って経験させたり考えさせたりして、学習活動への意欲を高める指導に努める。
- ◇自分の考えをまとめて話し合いに望んだり書いたりする機会を大切にするとともに、その成果がよりよい生活・学習成果に結びついたということに気付くことができるよう指導計画を改善していく。
- ◇調査問題の回答時間について『時間が余った』と回答している児童が多いことを、『全ての書く問題で最後まで回答を書こうと努力した』と回答している児童が少ないこととあわせて考えると、最後まで書けなかった結果、時間が余ったとも推測される。最後まで諦めないで努力する経験を、学校・家庭それぞれの中で積んでいけるよう励ましていく。
- ◇今後とも、児童がはっきり意識できるように目標（めあて・ねらい）やまとめをわかりやすく板書し、ノートにまとめさせる活動を設定する。さらに、児童と教師が目標（めあて・ねらい）を一緒に設定・確認し、一緒に学習を振り返っていく授業展開を重視する。また、授業の最後に書いている「学習感想」も、学習内容を振り返るための大切な活動であることを伝えていく。
- ◇家庭学習への意識が高まっていることがうかがえる一方、復習をしている状況が芳しくないことから、「家庭学習の手引き」（10のステップ）などを中心に、家庭学習の内容についても個々の課題にあった内容に取り組むように指導していく。
- ◇地域への関心が高いことがうかがえる。今後も様々な学習活動の中で、より広い視野を持って、外国のことなどに対しても自己の考えを持てるよう励ましていく。

終わりに

本校の児童は落ち着いた雰囲気の中、毎日の授業に一生懸命に取り組んでいます。

この結果についてはあくまで平均値によるものであり、数値の高低だけで判断できるものではありませんが、この機会に生活習慣や学習時間等を振り返り、各家庭においても具体的に取組んでいただきたいと思います。この先にある中学校生活・高校生活等も含めた進路を見据える中で、それぞれの児童の良さを認めながら、家族で将来の夢や目標等について話し合う機会をもっていただきたいと思います。

学校でも上記の結果をもとに、さらに指導に力を入れ、よりよい家庭学習のしかたについて指導したり、児童自らが自主的に学習に取り組むことができるように働きかけたりしていきたいと考えます。各ご家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できるよう学習環境を整える等、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

